

2022年10月31日

各位

株式会社三井住友銀行

JPリースプロダクツ&サービスズ株式会社に「SDGs推進シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、JPリースプロダクツ&サービスズ株式会社（代表取締役：石川 禎二）に「SDGs推進シンジケーション」を実施いたしました。

「SDGs推進シンジケーション」は、シンジケートローン実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDGs（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDGs貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDGsの取組推進に向けたアドバイス等をご提供する商品です。

今回対象となりました、JPリースプロダクツ&サービスズ株式会社については、以下に記す事業を通じて、SDGsの目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

① 航空機のリース、コンバージョン、パーツアウト事業による廃棄物の発生抑制

目標 12 つくる責任 つかう責任	12.5 2030年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する
-------------------------	---

② 太陽光発電事業及びバイオマスエネルギー事業への参画を通じた再生可能エネルギーの導入促進

目標 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	7.2 2030年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
--------------------------------	---

三井住友銀行では、「SDGsシンジケーション」により、本業を通じ、SDGsが達成される社会の実現に貢献をしております。

【事業内容】

下記の取組を通じて産業廃棄物の抑制に貢献

- ◆ 主に、中古機を中心とした航空機のリースアレンジメントサービス。
- ◆ リース期間を終えた航空機のエンジンなど再利用可能なパーツを売却するパーツアウト事業。
- ◆ リース期間を終えた旅客機を貨物機へ改造するコンバージョン事業。



パーツアウト事業

コンバージョン事業

【事業内容】

太陽光発電事業を通じて再生可能エネルギーの活用促進に貢献

- ◆ 日本全国で 25 拠点、合計で 71.3MW の発電出力（太陽電池ベース）の発電所を運営。
- ◆ 太陽光発電事業で培った知見をさらに活用すべく、東京農工大学や、ベンチャー企業との連携により、新たな再生可能エネルギーの事業化に向けた取組へ積極的に参画。



発電所では、羊の放牧による除草を実施

<ご参考>

※ SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

以 上